

市立豊中病院運営計画「実施計画」
－平成26年度:実施状況－

平成27年7月

1. 医療の質の向上

① 高度・専門医療の提供	26年度の取組状況	29年度目標	26年度目標	26年度実績
(1) 医療スタッフの確保	<p>民間事業者主催の医師の合同説明会に2回、看護師の合同説明会に10回以上参加し、職員募集のPRに努めた。採用試験は看護師・助産師について9回、コメディカルについて6回実施するなど、医療従事職員の確保に努めた。</p>			<p>合同説明会計12回実施、採用試験計15回実施</p>
<p>多様かつ柔軟な手法による採用試験、説明会の実施による医療スタッフの安定的確保に努める。また仕事と家庭の両立が出来るよう環境の整備(院内保育所の充実、病児保育)の検討などを行い、加えて働きやすい勤務時間制度について検討を行う。</p>				
(2) 病床の効率的な活用	<p>7対1看護配置は「重症度、医療・看護必要度」などの要件を満たした。病床利用率は95.5%(前年度比+1.3%)、平均在院日数は12.5日(前年度比0.2日短縮)で、目標値を達成した。</p>	利用率・在院日数	利用率・在院日数	利用率・在院日数
<p>全国の急性期病院においては、在院日数が年々短縮傾向にある。当院においても、将来的に同様の傾向が想定される中、更なる新入院患者確保を前提とした効率的な病床の活用にも努める。</p>		<p>95.0% 13日以内</p>	<p>95.0% 13日以内</p>	<p>95.5% 12.5日</p>
(3) 外来診療の充実と効率的な運用	<p>平成27年1月に慢性心不全看護外来を開設した。毎週金曜日午後に行い、1月～3月までの実績は63名であった。外来患者数(1日平均)は、1,235人(前年度比▲23人)で、目標値を下回った。</p>	外来患者数(1日平均)	外来患者数(1日平均)	外来患者数(1日平均)
<p>入院と同様に外来機能についても、高度・専門医療を行うにあたって重要な視点となる。予約率の向上により効率的な運用を図るとともに、特殊・専門外来の充実を図ることで、外来診療の充実にも努める。</p>		<p>1,300人</p>	<p>1,300人</p>	<p>1,235人</p>
(4) 救急医療体制の充実	<p>地域の医療機関からの緊急受診・当日診察依頼の患者受入れ体制の見直しを行い、時間内は原則全件受入れを行う運用に変更した。豊中市消防本部との意見交換会を行い「救急・災害医療情報システムORIONについて」等の情報交換を行った。</p>	救急車搬送受入数	救急車搬送受入数	救急車搬送受入数
<p>当院は、豊能二次医療圏のなかでは救急搬送件数の最も多い病院の1つであり、今後も公的病院としての役割を果たす必要がある。救急専門医確保による安定的な受け入れ体制確保に努めていく。</p>		<p>救急科からの入院患者数 5,300人 4,600人</p>	<p>救急科からの入院患者数 5,000人 4,600人</p>	<p>救急科からの入院患者数 4,705人 4,556人</p>
(5) 手術室の効率的な運用	<p>手術件数は前年度比184件増加、全麻件数は前年度比206件増加した。臨床工学技士が手術室での業務を行うことにより、医療機器トラブルに対応した。手術室における医療機器保守のマニュアルを整備した。</p>	手術件数	手術件数	手術件数
<p>手術室の効率的な運用により、手術待ち日数の短縮化と、これまで以上の緊急手術への対応を図ることで、地域中核病院として高度・専門医療の提供に努める。また、麻酔科医の十分な確保を図り、地域の手術に対する需要に適切に対応していく。</p>		<p>6,000件</p>	<p>6,000件</p>	<p>5,569件</p>
(6) 周産期医療の充実	<p>周産期システムの活用により看護記録・分娩経過記録などの集約ができるようになった。院内助産は29件で前年度より8件増加した。分娩件数は902件(うちハイリスク分娩143件、多胎分娩45件)で、前年度より16件減少した。</p>	分娩件数	分娩件数	分娩件数
<p>産婦人科医、小児科医、看護師等の人員体制の整備を中心とし、地域医療機関との連携体制を構築していくことで、「地域周産期母子医療センター」としての診療機能の維持・強化に努める。特に、当院に求められるハイリスク妊娠、多胎妊娠などへの安定的な対応に努めていく。</p>		<p>960件</p>	<p>960件</p>	<p>902件</p>

市立豊中病院運営計画「実施計画」

<p>(7) がん医療の充実</p> <p>がん医療の提供、緩和ケアの推進、がん医療の地域連携体制の推進、院内・地域がん登録の実施、情報提供や相談支援の実施など「地域がん診療連携拠点病院」としての機能の維持・強化に努める。</p>	<p>「地域がん診療連携拠点病院(国指定)」の必須要件が強化されたことに伴い「がんサロン」、「就労支援」、「がん患者に対する身体的・精神心理的・社会的苦痛等のスクリーニング」の実施など27年度指定更新に向け整備を行った。</p>			<p>「地域がん診療連携拠点病院(国指定)」の指定更新</p>
<p>(8) 医療資源の有効活用</p> <p>既存の診療機能について、当院に求められている高度・専門医療の提供といった役割や需給状況に応じて柔軟に見直しを図ることで、より適切な医療提供体制整備に努める。</p>	<p>平成26年度より、新たな放射線治療システムによる放射線治療を本格的に移動した。 平成27年度の組織・機構改革案を作成した。</p>			<p>新たな放射線治療システムの本格稼働</p>
<p>(9) 放射線の管理</p> <p>チーム医療の一員として放射線などを利用した検査・治療をするに当たり患者さんが安心して検査・治療が受けられるよう医療の安全・安心の向上を目指し装置の点検・保守をし被曝線量の低減等放射線管理に努めていく。</p>	<p>全ての放射線検査装置の撮影条件・透視条件の見直しを行い、撮影部位と撮影条件がリンクしている装置では、設定値の再登録を行った。概ね15%～20%被ばく線量が軽減できた。</p>			<p>15%～20%被ばく線量軽減</p>
<p>(10) 急性期におけるリハビリテーションの実施と充実</p> <p>現在の中心疾患別(脳血管疾患、運動器疾患、呼吸器疾患、廃用症候群)急性期リハビリテーションの充実を継続して行う。25年度より心臓リハビリテーションを実施する。またその充実を図るために、積極的な研修参加や部内での勉強会を引き続き行っていく。</p>	<p>廃用症候群は、依頼件数増加に対して医師の協力で一日の処方数調整(一日3例)を行い対応した。院外研修に積極的に参加し、糖尿病専門理学療法士等の資格を取得した。</p>	<p>PT、OT、ST、心リハ</p>	<p>17単位/一人/日 17単位/一人/日 17単位/一人/日 35単位/一人/日</p>	<p>PT、OT、ST、心リハ 17単位/一人/日 17単位/一人/日 17単位/一人/日 30単位/一人/日</p>
<p>(11) 治療に適切な食事の提供</p> <p>病院食は普通食以外にも、疾病の種類や摂食・嚥下の機能障害など様々な条件に対応できるように多くの種類を設定しており、さらに医師からの要望によりその種類は増えつつある。その全てがさらに院内で広く周知され、十分に活用されるよう体制づくりに努める。</p>	<p>治療食への切り替えの啓発を積極的に行ったが数値目標には至っていない。非加算食の「嚥下食」、「ハーフ食」や「濃厚流動食品」が院内で広く認知され、その利用が増加したことが大きな要因と考えられる。</p>	<p>特別治療食の比率</p> <p>32.0%</p>	<p>特別治療食の比率</p> <p>30.0%</p>	<p>特別治療食の比率</p> <p>28.5%</p>
<p>(12) 医療ニーズの把握と検証</p> <p>外部環境分析および内部環境分析による医療需要の把握と医療供給の検討に努め、地域の中核病院として当院の果たすべき医療機能を検証する。また、検証内容は病院職員に積極的に公表し、情報の共有化に努める。</p>	<p>医療法改正に基づき開始された病床機能報告制度への対応について、経営戦略会議で検討を行い、11月に厚労省へ平成26年度病床機能報告(①基本項目、②施設票、③病棟票)を行った。</p>			<p>平成26年度病床機能報告への対応</p>

市立豊中病院運営計画「実施計画」

② 医療の安全・安心の向上	26年度の取組状況	29年度目標	26年度目標	26年度実績
(13) 医療安全対策の徹底 医療安全管理室を中心に全職員が、医療事故発生の防止に取り組み、各種関連学会等を通じた新たな知見を習得することによって、「安全で安心できる病院」となるよう努める。	医療安全管理研修会(9月と2月)、新規採用の研修医および看護師に対する医療安全研修、医療安全推進週間での市民へのアピール、医療安全管理室ニュースの発行(月1回)、AEDの導入及び全看護師対象のBLSトレーニング実施、患者急変時の緊急コール体制の変更などを行い医療従事者の医療安全に関する意識の向上が図れた。			医療事故発生防止の取り組み
(14) 院内感染防止対策の充実 病院内の全ての人々を感染から守るため、現行のICT(院内感染対策チーム)による更なる活動の充実を図るとともに、関係各所と協力のもと体制強化に努めることで、継続的な感染対策活動を推進する。	刀根山病院・市立池田病院との相互ラウンド、市内5病院及び豊中市保健所との合同カンファ(6回)、抗MRSA薬・ゾシンおよび連絡薬剤(カルバペネム系・セフェピム)使用患者対象にICTラウンド(114件)、全職員を対象に感染対策講習会(2回)、医療従事者を対象にICT学習会(4回)等を実施し、感染対策の強化を図った。	MRSA発生率0.4%以下 緑膿菌発生率0.4%以下 セラチア菌発生率0.1%以下 施設間ラウンド1回以上 合同カンファ4回以上	MRSA発生率0.4% 緑膿菌発生率0.45% セラチア菌発生率0.1% 施設間ラウンド2回 合同カンファ4回以上	MRSA発生率0.44% 緑膿菌発生率0.43% セラチア菌発生率0.06% 施設間ラウンド2回 合同カンファ6回
(15) 災害対応と危機管理体制の確立 突然の有事に迅速かつ適切に対応できるよう職員の意識や能力を高めることを目的に大災害や大事故に備えてマニュアルの更新や訓練を実施する。 また、他地域における被災地への支援活動についても各種要請に適切な対応を図ることが出来るよう体制を整備する。	1月31日(土)に238名が参加し大規模災害訓練を行った。また、訓練実施前に担当部門ごとに事前勉強会を7回実施した。大規模災害対応マニュアル第2版を作成した。被災地支援活動体制のあり方を検討するとともに、必要備品等の検討を行った。災害時に必要となる資機材を整備した。			大規模災害訓練の実施
③ 情報化の推進と職員教育の徹底	26年度の取組状況	29年度目標	26年度目標	26年度実績
(16) 市立豊中病院総合情報通信システムの充実 電子カルテ更新について、「運用の効率化と安全性の向上を図るためにはどのような機能が必要なのか」という視点で更新する。	電子カルテ等TOPICS(市立豊中病院総合情報通信システム)の更新作業を進め、27年1月10日～12日の3連休で更新した。また、各部門システムのソフトウェアのライセンスを集約しシステム更新にあわせて一元化を行った。院内での更なる利便性の向上を図れるよう外来における無線LANの整備を行った。			電子カルテ等TOPICSの更新
(17) 個人情報保護に係る研修の推進 セキュリティシステムの構築と並行して、研修等を通じ職員の個人情報保護の意識を高める取り組みを実施する。あわせて、カルテ及び診療諸記録の紙媒体ならびに電子媒体の実態に即した、運用管理の構築と保存の徹底を図る。	外部講師を招いた情報セキュリティ研修を実施した。また、eラーニングによるセキュリティ研修を実施し、この取り組みが第11回日本eラーニング大賞においてベストプラクティス賞を受賞した。		eラーニング受講者数 セキュリティ講習会 800人 100人	eラーニング受講者数 セキュリティ講習会 600人 100人
(18) 診療情報管理の徹底 精度の高い診療情報の整備ならびに情報提供依頼に即応できる管理体制の構築に努める。管理体制の構築にあたっては、診療記録の質の向上を図り、職員に対する意識づけや管理方法の改善等を継続して実施していく。	入院診療計画書の整備を行った。また、同意書等の整備については引き続き検討していくこととした。日本病院会主催のQIプロジェクト参加し、臨床指標12項目及びDPCデータの提出を行うことで、フィードバックデータを基に他病院との比較が可能となった。			QIプロジェクトへの参加

市立豊中病院運営計画「実施計画」

<p>(19) クリニカルパス充実による医療の標準化</p> <p>質の高い医療の標準化を目的に、クリニカルパスの充実を図る。クリニカルパスを適用することで医療の質のみならず、患者満足度の向上や安全管理にも寄与する。</p>	<p>日本クリニカルパス学会発行のベーシックアウトカムマスター(BOM)の導入と看護ケアとの関連マスタ設定を行いパスの自動評価機能を構築した。全パスにおける量的バリエーション評価及びパスデータの移行方針についてパス大会を実施した。(9月)</p>	<p>クリニカルパス利用率</p> <p>50%以上</p>	<p>クリニカルパス利用率</p> <p>クリニカルパス移行数</p> <p>50%以上 100種</p>	<p>クリニカルパス利用率</p> <p>クリニカルパス移行数</p> <p>52.8% 281種 完了</p>
<p>④ 医師及び看護職員の業務負担軽減</p>	<p>26年度の取組状況</p>	<p>29年度目標</p>	<p>26年度目標</p>	<p>26年度実績</p>
<p>(20) 医師の業務負担軽減</p> <p>医師の業務負担軽減策を検討する。業務負担軽減策の1つとして医師事務作業補助体制の充実を図る。また、平成24年度より試行的に導入している外来メディカルアシスタント(MA)の拡充についても検討していく。</p>	<p>応援医師の活用、育児支援策(院内保育所、短時間勤務制度、病児一時引き受け制度)、薬剤師の病棟配置など業務負担軽減に努めた。MA(メディカルアシスタント)募集のため情報誌や折込などの広告媒体を活用した。</p>			<p>育児支援策等の実施</p>
<p>(21) 看護職員の業務負担軽減</p> <p>近年診療報酬上においても、看護職員の負担軽減を促進することが積極的に推進されている。看護補助体制の充実による業務負担軽減の可能性や職種間での業務分担のあり方を検討していく。</p>	<p>業務量調査の結果を各病棟で分析し、病棟毎に目標を設定し課題に取り組んだ。2人の看護師がパートナーとして質の高い看護を提供するパートナーシップを1病棟で試行した。看護補助者の研修を実施し技術向上を図った。</p>			<p>看護補助者の研修等実施</p>

2. 患者サービスの向上

① 接遇および患者の利便性向上	26年度の取組状況	29年度目標	26年度目標	26年度実績
(22) 患者満足度の向上		患者満足度	患者満足度	患者満足度
<p>入院患者および外来患者を対象とした満足度調査を計画的に行い、調査結果から得られた課題・問題点を分析し、患者サービスの視点から改善方法等を検討、実施する。また、投書(意見箱)などを通じ、患者・家族からの意見や要望の把握に努めるとともに、患者ならびに家族等の不安を軽減すべく、患者相談体制の一層の充実に努める。</p>	<p>患者満足度調査の結果に対する改善として、外来患者向けに「とよなか病院ねっと」のコンテンツ充実を図った。また、入院患者への満足度向上策として患者用図書室を活用するために患者向けアンケートを行った。</p>	<p>前回調査を上回る (入院95.2%、 外来84.7%)</p>	<p>(2年に1度実施、 26年度は未実施)</p>	<p>「とよなか病院ねっと」のコンテンツ充実化</p>
(23) 接遇の向上				
<p>患者・家族と病院職員の信頼関係を向上することを目的に、全職員を対象とした接遇研修の継続的な開催を行う。併せて、より職員が医療現場で生かすことが出来るような効果的な研修の内容についても検討を行い、接遇マナーの徹底に努める。</p>	<p>4月に新規採用・異動者向けの研修および研修医1年目職員にオリエンテーションの中で接遇研修を行った。平成27年1月に病院全体の接遇研修を実施し、107名が参加した。</p>			<p>接遇研修会の開催</p>
② 待ち時間対策および院内環境の整備・充実	26年度の取組状況	29年度目標	26年度目標	26年度実績
(24) 診察・各種検査待ち時間の対策				
<p>外来診察や各種検査の待ち時間・日数について、人員体制やシステムのハード面や、運用面といったソフト面の改善により、これらの待ち時間の短縮を図ることが出来ないか検討を行う。特に紹介予約患者における待ち時間短縮を優先に検討を行う。</p>	<p>豊中市保健所の依頼で「食中毒の予防について」、豊中市医療保健センターの依頼で「無料健康相談について」とよなか病院ねっとで放映した。退院精算の患者動線を入退院窓口から会計窓口へ変更し、待ち時間の短縮を図った。</p>			<p>退院精算の患者導線変更による待ち時間の短縮</p>
(25) 売店機能などアメニティの充実				
<p>患者さんや職員の利便性の確保のためコンビニエンスストアを設置する。またアメニティの充実について検討を行う。</p>	<p>駐輪場の設計委託を行った。旧売店、本屋スペースの活用を図るため、9月末に「療養サポートセンター」及び「がん情報コーナー」を整備した。</p>			<p>「療養サポートセンター」及び「がん情報コーナー」の整備</p>
(26) 食事療養の充実		シェフのお勧めメニュー	シェフのお勧めメニュー	シェフのお勧めメニュー
<p>病院食については「栄養管理」はもとより、食材・調理法・味付けにおいても一層充実した病院食提供が求められている。定期的な嗜好調査等の実施を通じて、より患者にとって満足度の高い食事提供に努める。</p>	<p>「シェフのおすすめメニュー」および「マチカネデリカ」をそれぞれ月に1回継続実施し、患者からの感想も良好であった。夜間入院(19時以降)に対応した食事の提供を8月1日から開始した。</p>	<p>2回/月</p>	<p>マチカネデリカ 1回/月 1回/月</p>	<p>マチカネデリカ 1回/月 1回/月</p>

市立豊中病院運営計画「実施計画」

③ 地域への貢献	26年度の取組状況	29年度目標	26年度目標	26年度実績
<p>(27) 市民向け講演会・講座の開催</p> <p>地域の中核病院として、講演会や講座の開催を通じて、患者・地域住民に対する啓発活動に努め、より身近な病院として信頼向上を図る。</p>	<p>市民を対象に「がん医療公開講座(乳がん)」、「看護の仕事について」、「認知症について」等、中学生を対象に「エイズと性感染症について」、小中学校教員を対象に「がんについての正しい知識と学校におけるがん教育について」、消防隊員を対象に「ホスピタルセミナー」の講演・講座を実施した。</p>			<p>「がん医療公開講座」等の実施</p>
<p>(28) 広報機能の充実</p> <p>広報機能の一層の機能充実を図ることで、病院のPR強化に努める。既存の広報ツールや情報収集のプロセスにおいて、不十分な点や見直しの余地が残されている点を抽出し、全病的な取り組みが展開出来るよう、体制の整備に努める。</p>	<p>ホームページの医師・研修医募集、看護師募集サイトのリニューアル(スマートフォン対応)を行った。また、創立70周年記念特集ページを作成し、寄稿文、70年のあゆみ、座談会、あいさつ等を掲載した。創立70周年記念モニュメント(パネル)を作成し、すこやかプラザに設置した。「病院だより」を4回発行した。</p>			<p>創立70周年記念特集ページの作成</p>

3. 医療連携の推進

① 地域における医療機関との連携	26年度の取組状況	29年度目標	26年度目標	26年度実績
<p>(29) 地域医療支援病院機能の維持・充実</p> <p>紹介・逆紹介の推進、在宅医療の支援、地域医療従事者に対する研修の実施、市民等への医療情報発信など「地域医療支援病院」に係る機能の維持・充実に努める。</p>	<p>紹介・逆紹介率の向上に向け救急受診後、地域医療機関に紹介する際は、必ず診療情報提供書を作成するように努めた。周術期口腔機能管理について豊能4市の歯科医師会に働きかけると共に、地域医療従事者セミナーを開催する等の取り組みを実施した。</p>	<p>地域医療支援病院紹介率 60.0% 70.0%</p>	<p>地域医療支援病院紹介率 58.5% 68.5%</p>	<p>地域医療支援病院紹介率 61.3% 71.9%</p>
<p>(30) 病病連携・病診連携の推進</p> <p>当院の診療機能・専門領域などのPRに努めるとともに、地域医療機関との信頼関係の構築により患者へのシームレスな医療提供を図る。</p>	<p>登録医総会の形式を見直し、第一部で業務報告や事前アンケートの回答を行い、第二部は当院診療科部長等との意見交換の時間を設け、顔の見える関係を築くことができ、登録医からは概ね好評を頂いた。</p>	<p>登録医制度契約率(内科) 80.0% 70.0%</p>	<p>登録医制度契約率(内科) 77.0% 67.0%</p>	<p>登録医制度契約率(内科) 75.0% 67.2%</p>
<p>(31) 4疾病を中心とした地域医療連携パスの拡充</p> <p>現在、地域の医療機関と協力して「がん」、「脳卒中」、「糖尿病」、「急性心筋梗塞」、「大腿骨頸部骨折」といった疾病の地域連携パスが稼働している。今後も、地域全体でのシームレスな医療提供体制の充実に努めるべく、対象疾患ならびに連携医療機関の拡充を図っていく。</p>	<p>大腿骨頸部骨折や脳卒中、糖尿病の地域連携パスは、計画策定病院と連携先医療機関との連携会議に出席し、運用の見直しやバリエーション分析などを検討した。がん地域連携パスは、連携先診療所等との患者フォローに係る検査情報の交換をするためのシートの運用について取り組みを進めた。</p>			<p>地域連携パスの実施</p>
<p>(32) 臨床検査講演会・技術講習会の開催</p> <p>地域における医療機関の医師、臨床検査技師や看護師などの医療従事者を対象に、臨床検査をテーマとした講演会や技術講習会を開催し、最新の情報を提供するとともに情報交換を行い、医療水準を高めていく。</p>	<p>第1回目の超音波技術講習会を9月6日に開催し、12名の臨床検査技師が参加した。講演会については、保健所とタイアップして進めていくことを話し合った。</p>		<p>超音波技術講習会 1回開催</p>	<p>超音波技術講習会 1回開催</p>
② 自治体立病院、特定機能病院との連携	26年度の取組状況	29年度目標	26年度目標	26年度実績
<p>(33) 圏内市立病院および特定機能病院との連携</p> <p>各病院の医療提供体制や地域性、自治体の意向等も考慮した上で、二次医療圏内として最適な機能分担のあり方を検討する。なお、当該連携にあたっては、機能分担のみならず、各種情報連携のあり方といった点も含め検討を進める。</p>	<p>北大阪5病院会議などを通じて情報交換に努めた。「豊能医療圏がん医療ネットワーク協議会」や「豊能医療圏脳卒中地域連携パス会議」などを通じて、連携強化に努めた。</p>			<p>北大阪5病院会議等による連携</p>

4. 経営基盤の確立

① 収益の確保	26年度の取組状況	29年度目標	26年度目標	26年度実績
(34) 診療報酬の適正な算定 診療報酬算定については月次レベルでの算定状況確認に努める。特に医学管理・在宅療養に係る算定項目は業務運用による部分も大きいため、関連する業務運用の検証も適宜行っていく。またレセプト減点率や保留削減にも継続して努めることで適切な精度管理も行っていく。	平成26年度診療報酬改定について医師への通知を行った。その一つとして向精神薬の多剤投与について通知を行い、該当する患者が居る場合は主治医に問合せするように院内調整を行った。レセプト点検システムを導入した。	減点率	減点率	減点率
(35) DPC/PDPS制度への対応 適正な病名コーディングおよび正確なデータ提出に努める。また、制度設計の過渡期であるDPC/PDPS制度に対して、適宜各種関連データ等を用いた分析・検証を行う。	コーディングの精度について、平成26年度上半期の詳細不明コードは他病院の平均5.8%と比較し、当院は昨年に引き続き0.4%に抑えることができた(DPC分析ソフトEVE参加575病院中3位)。			詳細不明コード 0.4%
(36) 未収金の発生抑止と督促体制の強化 適切な収益確保並びに負担の不公平感の解消という2つの視点から、未収金の発生防止と督促体制の強化に努める。発生抑止については、発生要因別に事例整理をおこない、要因ごとの病院対応方針を明確化する。また、多様な手法による督促体制の構築を検討する。	電話による催告1603件、窓口での催告423件、督促状の送付1428件を行い、未収金回収に努めた。救急入院患者へ限度額認定の説明(説明件数1512件、申請件数617件)を行い未収金の発生抑制に取り組んだ。10月より医療費未収金業務を弁護士事務所へ委託した。	現年度分収納率 過年度分収納率	現年度分収納率 過年度分収納率	現年度分収納率 過年度分収納率
② 費用の抑制、軽減	26年度の取組状況	29年度目標	26年度目標	26年度実績
(37) 後発医薬品導入の検討および導入効果の検証 後発医薬品への切り替えについては、安全性の確保を最優先とし、今後の薬物療法の変化、他病院での使用状況、流通状況、納入価格、切り替え効果などを鑑み、検討していく。	平成26年度診療報酬改定で新設された「後発医薬品指数」を引き上げるため、4月以降に後発医薬品への切替えを3回(69品目)実施した。既に切替え済みの後発医薬品について、継続して経済的効果と安全面の検証を行った。			後発医薬品数量割合(DPC対象期間:10月~9月) 0.49
(38) 材料費の抑制・軽減 材料の価格交渉の実施について、各々の特性に応じた交渉方法を検討していく。また他病院とのベンチマークを元にした現行採用物品の価格の適正化や新規採用物品の価格交渉活動を行う。	診療材料と医薬品について、市場価格を調査のうえベンチマークを基にして仕入業者と価格交渉を行うなど、購入価格の抑制に努めた。			

市立豊中病院運営計画「実施計画」

(39) 光熱水費の抑制・軽減		電気ガスエネルギー使用量	電気ガスエネルギー使用量	電気ガスエネルギー使用量
<p>全職員に対してコスト抑制に対しての意識を働きかけていくことで、光熱水費などの諸経費の抑制・軽減に努める。</p>	<p>光熱水費の削減に向けて、照明の間引きや空調温度の適正管理、空調一部停止などに取り組んだ結果、平成23年度比で、電気使用量3%減、ガス使用量8%減、水道使用量19%減となった。</p>	<p>5%削減 (平成23年度比)</p>	<p>2%削減 (平成23年度比)</p>	<p>2%削減 (平成23年度比)</p>
<p>(40) 施設の計画的な整備</p> <p>平成24年度に作成した施設の修繕・整備計画に基づき建物や設備の改修を実施する。また、コージェネレーションシステム(熱電併給)の更新などを実施する。</p>	<p>医療情報室の改修工事は9月末に完了した。コージェネレーションシステム更新工事は1月末に完了した。CT更新工事は2月末に完了した。二尾池の曝気ポンプ更新、防火戸レリーズ(自動閉鎖装置)取付け、受水槽更新工事は3月末に完了した。</p>			<p>コージェネレーションシステム更新工事</p>
<p>(41) 医療機器の計画的な整備</p> <p>地域の急性期中核病院として必要な高額医療機器について、導入の緊急性や需要見込み等を考慮しながら適切な更新計画を策定のうえ整備する。また、とくに重点化を図るべき分野については、優先的に整備する。</p>	<p>平成21年度から計画的に更新している電動ベッドについて100台分を更新した。平成27年度の機器購入について検討した。(300万円以上の院用備品は33件、431,691千円。300万円未満の院用備品は64件、58,624千円。)電子カルテ等TOPICS(市立豊中病院総合情報通信システム)を更新した。</p>			<p>平成27年度医療機器購入の検討</p>
<p>(42) 超音波装置の中央管理実施</p> <p>超音波センターを設置し、院内の超音波検査装置を臨床検査部で統括管理する。効率よい運用ができるよう配備し、必要に応じて点検やメンテナンスなどを行う。また適切な更新計画を策定する。</p>	<p>新規購入機器リストへ登録し、超音波機器リストの更新を行った。臨床検査運営委員会で、超音波機器管理センターの業務等について評価、検討した。次年度の予算申請を超音波機器管理センターからの一括申請とした。</p>			<p>超音波機器管理センターによる予算申請</p>
<p>③ 運営管理体制の構築</p>	<p>26年度の取組状況</p>	<p>29年度目標</p>	<p>26年度目標</p>	<p>26年度実績</p>
<p>(43) 職員のモチベーション維持向上</p> <p>公平で透明性の高い業績評価制度の導入を図ることで、日常業務に対するモチベーション向上に努める。当該制度導入にあたっては、経営的な視点の他に、日常業務に対する姿勢や行動といった視点を踏まえた制度設計に努める。その他、時間外勤務労働についても業務効率化を図ることで削減することをめざす。</p>	<p>医師の手当制度を創設した(緊急医療業務従事職員の特殊勤務手当)。夜間看護職員に対する手当(深夜業務従事職員の特殊勤務手当)の増額見直しを行った。</p>			<p>医師の手当制度の創設</p>
<p>(44) 研修制度の充実</p> <p>高度・専門医療の提供の実現にあたって、人材育成は最も重要な要素であり、病院全体として充実を図る。また、当該取り組みを対外的に積極的にPRしていくことにより、患者だけでなく医療スタッフにとっても魅力ある職場づくりを推進していく。</p>	<p>医療安全管理研修、感染対策研修、ハラスメント研修など各種研修会を実施した。事務・コメディカル向け心肺蘇生の研修会を5回(8月～1月)実施し、計219名が受講した。</p>			<p>心肺蘇生の研修会実施</p>

市立豊中病院運営計画「実施計画」

(45) 地方公営企業会計制度改正への対応				
<p>企業会計基準との整合を図ることを目的として、地方公営企業会計制度が改正された。借入資本金の負債計上や退職給付引当金、賞与引当金等の義務化、リース会計の導入など、大きく制度が変更されるなかで、これらの制度改正に対応する必要がある。また、財務諸表・健全化指標への影響の把握に努め、良好な経営基盤の確立に向けて取り組みを行う。</p>	<p>新会計基準に対応するようシステム改修を行った。新会計基準に基づき監査資料を作成し、旧会計基準と新会計基準との違いや影響について、院内職員に対し情報共有を図るとともに監査委員に説明を行った。</p>			<p>新会計基準への対応</p>
(46) 病院機能評価による機能向上				
<p>病院機能評価の認定更新により、現状の優れている点や改善すべき問題点を客観的に把握し、改善に努めることで病院機能の向上及び効果的なサービスの改善につなげる。</p>	<p>病院機能評価検討委員会を毎月開催し認定更新に向けて取り組んだ。模擬訪問審査(6月)、幹部職員による病棟・部署ラウンド(9～11月)、他院への視察(10月)等を実施した。書面審査は8～9月に提出、訪問審査は11月13日・14日に受審した。全88項目中、S評価2項目、A評価82項目、B評価4項目、C評価なし、という高い評価で認定更新ができた。</p>			<p>病院機能評価の認定更新</p>
(47) 経営状況・業務実績の共有化				
<p>全職員が病院の経営状況を理解し日常の業務に柔軟に対応出来るよう、周知の方法や周知する内容等も工夫を図る。目標に対する達成度や現状の課題を認識することで、迅速な経営判断・実行への着手を図っていく。</p>	<p>4月に「運営方針について」、7月に「(実施計画の)平成25年度実施状況」、7月と12月に「院内通信」、12月に「年度別収益的収支決算比較表」及び「市立豊中病院の経営状況」を院内ポータルと院内ホームページに掲載し、経営状況や運営方針などについて全職員への情報共有に努めた。</p>			<p>「運営方針について」、「院内通信」の発行等</p>

数値目標達成状況一覧表

No.	個別活動プラン等	数値目標項目	後期実施計画終了時 (平成24年度見込)	目標値(平成29年度)	目標値(平成26年度)	実績値(平成26年度)
2	病床の効率的な活用	◎病床利用率	94.5%	95.0%	95.0%	95.5%
		◎平均在院日数	12.5日	13日以内	13日以内	12.5日
3	外来診療の充実と効率的な運用	◎外来患者数(1日平均)	1,270人	1,300人	1,300人	1,235人
4	救急医療体制の充実	◎救急車搬送受入数	4,700人	5,300人	5,000人	4,705人
		◎救急科からの入院患者数	4,600人	4,600人	4,600人	4,556人
5	手術室の効率的な運用	◎手術件数	5,500件	6,000件	6,000件	5,569件
6	周産期医療の充実	◎分娩件数	920件	960件	960件	902件
10	急性期におけるリハビリテーションの実施と充実	○理学療法(PT)			17単位/一人/日	17単位/一人/日
		○作業療法(OT)			17単位/一人/日	17単位/一人/日
		○言語聴覚療法(ST)			17単位/一人/日	17単位/一人/日
		○心大血管リハビリテーション科			35単位/一人/日	30単位/一人/日
11	治療に適切な食事の提供	◎特別治療食の比率	30.9%	32.0%	30.0%	28.5%
14	院内感染防止対策の充実	◎MRSA院内発生率	0.45%	0.40%以下	0.40%以下	0.44%
		◎緑膿菌院内発生率	0.45%	0.40%以下	0.45%以下	0.43%
		◎セラチア菌院内発生率	0.12%	0.10%以下	0.10%以下	0.06%
		○施設間のラウンド回数(相互に1回)			2回	2回
		○合同カンファレンス回数			年4回以上	6回

数値目標達成状況一覧表

No.	個別活動プラン等	数値目標項目	後期実施計画終了時 (平成24年度見込)	目標値(平成29年度)	目標値(平成26年度)	実績値(平成26年度)
16	市立豊中病院総合情報通信システムの充実	○資産管理調査率			100%	100%
17	個人情報保護に係る研修の推進	○e-ラーニング受講者数			800人	600人
		○セキュリティ講習会			100人	100人
19	クリニカルパス充実による医療の標準化	◎クリニカルパス利用率	50.0%	50.0%以上	50.0%以上	52.8%
		○クリニカルパス移行数			100種	281種 完了
22	患者満足度の向上	◎患者満足度調査結果、満足しているとの回答(入院患者)	95.2%	前回調査を上回る	(2年に1度実施、27年度実施)	(2年に1度実施、27年度実施)
		◎患者満足度調査結果、満足しているとの回答(外来患者)	84.7%	前回調査を上回る	(2年に1度実施、27年度実施)	(2年に1度実施、27年度実施)
26	食事療養の充実	◎シェフのお勧めメニュー回数	1回/月	2回/月	1回/月	1回/月
		○マチカネデリカ			1回/月	1回/月
29	地域医療支援病院機能の維持・充実	◎地域医療支援病院紹介率	57.5%	60.0%	58.5%	61.3%
		◎地域医療支援病院逆紹介率	63.5%	70.0%	68.5%	71.9%
30	病病連携・病診連携の推進	◎登録医制度契約率(医科)	75.1%	80.0%	77.0%	75.0%
		◎登録医制度契約率(歯科)	64.0%	70.0%	67.0%	67.2%
32	臨床検査講演会・技術講習会の開催	○超音波技術講習会の開催			1回	1回
34	診療報酬の適正な算定	○減点率			0.25%	0.18%
36	未収金の発生抑止と督促体制の強化	◎現年度分収納率	98.93%(入院)、97.48%(外来)	99.0%以上	99.0%以上	99.7%
		◎過年度分収納率	10.67%(入院)、13.24%(外来)	20.0%以上	20.0%以上	17.3%

数値目標達成状況一覧表

No.	個別活動プラン等	数値目標項目	後期実施計画終了時 (平成24年度見込)	目標値(平成29年度)	目標値(平成26年度)	実績値(平成26年度)
39	光熱水費の抑制・軽減	◎電気ガスエネルギー使用量	4,659kl (原油換算)	(H23年度比)5%削減	(H23年度比)2%削減	(H23年度比)2%削減
一	経営基盤の確立	◎経常収支比率	98.7%	100%	100%	101.5%
		◎入院診療単価	55,700円	58,000円	(予算) 56,500円	55,572円
		◎外来診療単価	13,200円	14,000円	(予算) 14,200円	13,514円